

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第30総会期主題
平和を実現する人々は幸いである一マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
(1) 非核・非暴力による平和を構築する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
・女性と子どもの権利をまもる
・パレスチナYWCAの活動を支援する
(2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA1・2

JAN/FEB. 2011

発行所 日本YWCA
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
【駿河台オフィス】
〒101-0062千代田区神田駿河台1-8-11
東京YWCA会館302号室
Tel. 03-3292-6121 / FAX 03-3292-6122
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 侯野尚子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)
www.ywca.or.jp

年頭にあたって

人と出会う

日本YWCA会長 侯野尚子

昨年、日本を含む東北アジアの国際情勢は、国レベルでは緊張関係が生まれました。国内では、大学新卒者の就職率が6割程度で、超氷河期と言われました。無縁社会が問題化され、孤独に亡くなっていく方々の存在が浮かび上がりました。どちらを向いても暗い、と言いたくなる1年であつたかも知れません。しかし、暗い時にこそ、輝く光は確かに見えるのです。

私たちYWCAは、平和を実現し、共に生きる社会を目指しています。今ほど、YWCAの働きが求められている時代はありません。多くのところで、私たちの働きを待っている方々がおられます。その働きを実感するためには、何が必要なのでしょう。それは、具体的に「人と出会う」ことです。

2011年7月、世界YWCA総会が「女性が創り出す安全な世界」をテーマにスイスで開催され、3000人近い女性たちが集います。日本からは、オプザバーを含め18名が参加します。参加する人の3分の2が35歳以下であり、新鮮な経験をするのであります。彼女らの派遣は、単に派遣することに終

わらず、恵みは分かち合うことができます。地域への報告会など、実りを分かち合う機会をぜひ設けてください。また派遣されるメンバーは全国の皆さんからのメッセージが託された「うちわ」を配ろうと計画しています。全国の皆さんの心を、届けたいと思います。

11月には、久しぶりに「全国会員集会」を長崎で開催します。1泊2日という短い時間ですが、日本のYWCAに連なる者たちが、平和への思いを確かめ、新たな力を得て、地域での活動に多くの湧き起る力を与えてくれると思います。現在、福岡・熊本・長崎のYWCAの方々に若いメンバーを加えながら、日本YWCA運営委員と共に実行委員会を結成し、プログラムを計画しています。1泊2日が短い方は、前後に連泊して、長崎を楽しんでいただけたらよいかと思えます。楽しむことは力を得ることです。1人でも多くの方々にご参加いただきたく、新しい方、会員になろうか迷っている方たちをぜひお誘いください。

さらに12月には「南京を考える旅」を実施予定です。

中国とは現在国レベルで緊張関係が生じていますが、このような時であるからこそ、実際に中国を訪問し、中国の方々とお会いすることは、マスメディアとは違う、YWCAの持つ広がりを感じる機会です。関心のある方はぜひ、一緒にしたいと思います。「12月」とは、73年前に日本軍が侵攻したその月であります。中国の方たちと出会う、共に歴史を学び、未来を築こうとする取り組みは、私たちの認識を大きく変えることになると思います。

出会い、それは「出て・会う」と書きます。文字通り、一人ひとりが、関心のある場所へ、「出る」ことになって、そこから世界が広がります。「忙しい」「なかなか出られなくて」から、「行ってみようかしら」「折角言われたから」「おいしいもの食べられるし」「きつかけはいろいろあっても、その出会いは確かな明日への一歩に繋がります。それは見えざる手の導きです。私自身が日々その恵みを感じています。全国の皆さんとおめにかかれることを心待ちにしています。どうぞ、それまでご愛くださいませ。そして出会いから確かな力を得て、YWCAで共に元気に多様な働きをなしていきましょう。

2011年度の活動予定
7月10日(日)～16日(土)
世界YWCA総会(於・スイス チューリッヒ)
8月 ひろしまを考える旅
11月26日(土)～27日(日) 全国会員集会(於・長崎)
12月中旬 南京を考える旅(於・中国 南京)
この他に日韓ユースカンファレンスを予定(於・韓国)

世界YWCA総会

今年7月にスイスで開催



いよいよ今年7月、スイスのチューリッヒに於いて4年に一度の世界YWCA総会が開催されます。「女性が創り出す安全な世界」というテーマのもと、7月10日～11日のプレ総会、12日～13日の国際女性サミット(IWS)、14日～16日の総会が行われます。

まずプレ総会は、「若い女性のリーダーシップ・フォーラム」「YWCA運動と組織運営力の構築」の2つグループに分かれて実施。次のIWSにはYWCAの活動のパートナーである他団体で活動する女性たちを招き、性と生殖に関する健康と権利、HIVとAIDS、女性への暴力、正義と平和に関して「安全」という切り口でディスカッションが行われます。1995年に開催された北京女性会議も団体を越えた女性たちの対話から発展して開催された経緯があるように、IWSでの女性たちの対話は国際社会への提言を創りだし、女性差別撤廃条約やミレニアム開発目標の実現へと繋がります。日本YWCAはこのビジョンを再確認して、積極的に発言していきたいと思えます。

IWSの中で、女性の人権の確立に貢献している女性や団体を称する「メアリー・ロビンソン賞」が発表されます。日本YWCAから京都YWCAの滞日外国人支援活動「APT」を推薦していますので期待しています。

総会では、向こう4年間の方針の決定の他、世界各地のYWCAの働きを神学や国際政策から分析する講演、女性の課題別ディスカッション、各YWCA提供のワークショップ等のセッションが準備されています。日本YWCAでは、9条・平和・女性への暴力の克服をキーワードにしながらワークショップを準備中です。

日本YWCAを代表して世界YWCA総会に出席する18名に全国の地域YWCAの会員一人ひとりから世界の仲間へのメッセージを託してもらおうと「ワンコインばきん&全国メッセージキャンペーン」をスタートしました。ワンコイン(500円)で憲法9条が印刷された「うちわ」をプレゼントします。その裏面にメッセージを書いて日本YWCAにお送りください。ワンコインは、経済的に参加が困難な世界のYWCAの参加者の渡航費支援のほか、日本から出席するための参加費用、準備・報告会開催費用に用いさせていただきます。「女性が創り出す安全な世界」を合言葉に、さあ、一緒に準備を始めましょう。

日本YWCA総幹事 西原美香子
* 3面に関連記事掲載

合意形成こそ

今地裕美子

私が卒業した滋賀県立大学の初代学長の日高敏隆先生が、2009年11月に亡くなった。在学中、日高先生の講義にほとんど出なかったが、先日先生の著書を読んだ。「人間には、概念的な世界、つまりイリュージョンという色眼鏡を通してしか、ものが見えない」「イリュージョンをだんだん変えていくと楽しいじゃありませんか、というぐらいに考えていたほうがいいじゃないか」と書かれていたのが印象的だった。

私の専攻の環境科学部環境計画学科は、従来のエンジニアリングだけでなく、環境問題を解決するための新しいアプローチを考えるところだった。汚濁物を除去すれば、環境問題は解決すると信じられていた時代は終わり、文明そのものが環境破壊の元凶であることが分かり、人間がどう生きるかが問われている。より良い生活を求めて環境を作り変えたのに、より悪くなってしまう。(現在は、環境が悪くなること知りながら、利権のために環境悪化を自ら招いているものの方が多いが。)こんなはずではなかった、という思いを持ちながら生き迷う人々を救うのは、新たな科学的発見ではない。さまざまな立場、状況の人々に関係している問題は、世界のどこかに隠されている真理さえ見つかってしまえばすべて解決とはいかない。より多くの人が最大限納得する合意形成を試行錯誤の上、実現するしかない。しかしだからこそ、おもしろいのではないかと思う。ゼロから皆で答えをつくり、常により良いものへと変えていく。そして皆でつくった答えは、皆で責任を負い、かつ愛着あるものになる。一人よがりのイリュージョンも、他者と共有し変化させていけば良い。YWCAにおいて、問題を解決するための話し合いは、そのことが実践されている場だと思つた。より多くの人が、問題に向き合い関わり、そして他者と向き合い関わる。そのプロセスが救いになるのだと思う。(日本YWCA運営委員)

2011年を展望して

日本YWCA「全国会員集会」 長崎開催

よかとこばいー!! 「ノーモア・ナガサキ」 平和の発信地に 集まろう!!

■長崎YWCA

日本YWCA第30回全国会員集会での意見を受けて、日本YWCA地域YWCA支援委員会が「全国会員集会」を企画し、開催地を募集しました。

そこで長崎YWCAは、創設46年になります、「ひろしまの旅」は毎年開催されても、「最後の被爆地」としての長崎開催は1977年以降なかったこと、また、現在の被爆者の高齢化と継承問題のことも、さらに世界YWCAに「高校生平和大使」が11年間も訪問し「平和アピール」をしていることなどを考えて、「開催地として前向きに検討する」と回答しました。

その後、「全国会員集会」を長崎で開催してほしいと日本YWCAより連絡があり、役員会で協議し引き受けることにしました。

「女性が創りだす安全な世界」をテーマに、世界YWCA総幹事ダンボンズバンドさんを被爆地長崎にお迎えしての講演を企画・依頼中、実現すれば、開催地としてはとても幸いなことです。多くの方々に参加を呼びかけていきたいと思えます。

● 実行委員会が昨年9月22日にスタートしました。開催日程は2011年11月26日(土)〜27

日(日)。会場は「長崎YWCA発祥の地」であり、歴史的背景もある活水学院のチャペル等です。活水YWCAは、1907年に組織され、1923年9月には河井道さんを迎えて日本YWCAに加盟し、活動してきました。戦後、活水YWCAで活動してきた卒業生が「YWCAで得た経験を生かし、連帯感を持ち続け、主の証し人として社会に貢献したい」と願い、YWCA顧問の鶴田千代子先生を中心に準備会を重ね、1964年2月に「長崎YWCA」として被爆地に発足し、今日に至っています。

● 大なる夢と希望を胸に変革の幕末を駆けぬけた風雲児「坂本龍馬」の大河ドラマは、歴史の街長崎、居留地、外国貿易の港町長崎などを全国に紹介して昨年11月に終了しました。全国のYWCAの皆さん、2011年11月は「ばってん長崎・ロマンの街」で出会い、全国会員交流をしましょう。「被爆地長崎」から平和を世界へ発信しましょう。熊本・福岡・長崎YWCA会員等で構成する実行委員会は準備して…まತ್ತるばい!!

● 長崎YWCA会長 熊江雅子

中高YWCAとの協働を深めて

■甲府YWCA

甲府YWCAは2010年の夏、「第28回原爆絵画展」を開催いたしました。これまで多くの方々のご理解とご協力、そしてお祈りをいただき、続けていくことができましたことは感謝にたえません。



若い方々に平和の尊さ・命の大切さを伝えたいと願って実施してきましたが、最近はその思いが空回りしているように感じられることもありま

す。しかし、いつも山梨英和高中YWCAの皆さんが会場の飾り付けや片付けを手伝ってくたさるので、甲府YWCAの会員たちも「がんばろう」と元気をもらっています。

2010年は原爆絵画展最終日に、シンガーソングライター中村里美さんによるピースライブ「歌と語り」で伝える私のヒロシマ・ナガサキを開催しました。その時に中村さんからプレゼントされた広島島の「被爆アオギリ二世の苗木」を山梨英和中学校・高等学校に贈呈し、校庭に植えていただきました。大勢のYWCAのみならず共に礼拝をして、その木の成長を願い、平和を祈りました。その様子はいくつかの新聞にも紹介されました。

昔から山梨英和とYWCAとは、たいへん深い関係があります。働きをしようと、昨秋、神戸YWCAのプロジェクトで、役割を確認した。例えば、ソウルYWCAに介護活動に関心があるグループがあれば、介護事業部や会員活動のデイサービスやお弁当配達・食事会等に特化して訪問してもらおう。ホームレス支援のための夜回り活動に関心があるグループがあれば、受け入れる。もちろん、受入れ内容は、活動現場の人に任せる。また、神戸YWCAから、ソウルYWCA主催のキャンプに青年を送り、戻ってきてから、青年のグループが立ち上がるかもしれない。互いに学ぶものは多い。相互に情報交換・共有、協

す。卒業生全員がYWCAの会員になったという時代もあったそうです、甲府YWCA創立のきっかけとなった初等教育研究会では、民主教育を学ぶために合宿をしてきた女性教師のために生徒たちが炊事などを担当しました。

今夏には山梨英和高中YWCAが当番校となり、清里の清泉寮において関東地区中高YWCAカンファレンスが行われることになっており、甲府YWCAとしても協力したいと思っています。今年には山梨英和高中YWCAと今夏以上により関係が築けるのではないかと期待し、願っています。

「原爆絵画展」も2012年は第30回を迎えます。初回から関わってきた会員たちの思いが反映するような記念企画を開きたいと準備をしています。それと共に、ぜひとも若い方々の意見も取り入れた魅力あるプログラムを考えたいと思います。

甲府YWCA会長 山本貴美子

ソウルYWCAとの協働準備プロジェクト 顔の見える関係から 本音を言える関係へ

■神戸YWCA

近い将来、何か協働できることはないかとソウルYWCA国際協力部より持ちかけられ、神戸YWCAでは、2008年6月より「ソウルYとの協働準備プロジェクト」(以下、プロジェクト)が発足した。

2008年〜2010年度、互いの国の文化・歴史を学び合い、共通のテーマを持って、訪問し合ってきた。平和構築のた

めに、まずは顔の見える関係づくりをと進め、すでに本音も言える関係ができています。そろそろ第2ステージへ向かう時が来た。

当初、両YWCAで平和に関する活動を新たに生み出していくことを模索していたが、各々のYWCAの活動を大切に、そこから互いに学び合えるよう、参加グループをコーディネート

する働きをしようと、昨秋、神戸YWCAのプロジェクトで、役割を確認した。例えば、ソウルYWCAに介護活動に関心があるグループがあれば、介護事業部や会員活動のデイサービスやお弁当配達・食事会等に特化して訪問してもらおう。ホームレス支援のための夜回り活動に関心があるグループがあれば、受け入れる。もちろん、受入れ内容は、活動現場の人に任せる。また、神戸YWCAから、ソウルYWCA主催のキャンプに青年を送り、戻ってきてから、青年のグループが立ち上がるかもしれない。互いに学ぶものは多い。相互に情報交換・共有、協

働けるのではないかと期待し、願っています。

「原爆絵画展」も2012年は第30回を迎えます。初回から関わってきた会員たちの思いが反映するような記念企画を開きたいと準備をしています。それと共に、ぜひとも若い方々の意見も取り入れた魅力あるプログラムを考えたいと思います。

甲府YWCA会長 山本貴美子



世界YWCA総会へ 私たちが行ってきます!



代議員 (6名)

● 俣野尚子 (日本YWCA会長、40代)

● 西原美香子 (日本YWCA総幹事、40代)

● 住田サウラ (大阪YWCA会議員、神戸YWCA職員、20代)

● 樋口さやか (福岡YWCA会議員、日本YWCA運営委員、20代)

● 吉村千恵 (京都YWCA副会長、30代)

● 岡 佑里子 (京都YWCA会議員、京都YWCA職員、30代)

● 松原恵美子 (プール学院中高YWCA顧問、40代)

● 俵 恭子 (熊本YWCA会議員、60代)

● 堀添里緒 (横浜YWCA会議員、20代)

● 藤田阿弥子 (東京YWCA会議員、東京YWCA職員、30代)

● 伊藤早織 (札幌YWCA会議員、20代)

● 坂本 渚 (名古屋YWCA会議員、20代)

● モーア アン (神戸YWCA会議員、50代)

● 藤原玲子 (静岡YWCA会議員、50代)



初めてこのような世界中のYWCAのネットワークを感じられるようなものに出席させてもらえる機会であるため、これまでの日本のYWCAの取り組みを世界中に伝えていくと同時に、世界中のYWCAの取り組みを吸収し、戻ってきた後にはこれらの活動に還元をしていけるように学んできたと思う。

種

「新しい歌を主に向かって歌え。主は驚くべき御業を成し遂げられた。」 (詩編 98編1節)

「YWCAは、日本の良心です」。昨秋、ソウルで行われた日韓YWCAカンファレンスで、延世大学の徐正敏先生が語られた言葉です。戦前、朝鮮で日本語を教えた父を持つ私は、深い懺悔の気持ちで参加していたので、とても恥ずかしく思いました。しかし、韓国の皆さんの温かいおもてなし、そして言葉は分からなくてもその熱いお祈りに涙があふれ、赦されていることを実感しました。過去を塗り替えることはできないけれど、謝罪し、真実に生きようとするYWCAの姿勢が、和解と連帯を生み出しました。

「新しい歌」は、バビロン捕囚から解放へと導いて下さった、「神様の驚くべき御業」への感謝からあふれ出す、喜びの歌であり、再出発を祈る歌でもありました。今、さまざまな課題と緊張関係にある私たちの世界。しかし、少しずつ何が動いていると感じませんか? 歴史を、初めから終わりまで導かれる神様に全幅の信頼をおき、新しい年、希望をもつて一歩を踏み出しましょう。全世界に散らされている仲間たちと、心をひとつにして。

寺島順子 (日本YWCA運営委員)

世界YWCA総会 2011 ワンコインほきん & 全国メッセージキャンペーン

— 私たち世界YWCA総会代議員・オブザーバーは、全国のみなさまの声を世界YWCA総会へ集まる3000人の世界の仲間へ届けます —

平和のメッセージ、世界に伝えたいあなたの活動、イラストや書道など、形式は問いません。さあ、メッセージを届けましょう。
参加方法は簡単! ワンコイン募金(500円)にご協力ください。ご協力いただいた方に選れなく、メッセージうちわを1枚プレゼントします。うちわにメッセージを書いて、日本YWCA・地域YWCA・もしくは代議員・オブザーバーへお渡ください。
ワンコイン募金は随時受付。メッセージうちわは、2011年6月30日 日本YWCA到着分までお届けすることができます。

- ① ワンコイン募金に参加 ② メッセージうちわをゲット ③ うちわにメッセージを書いて



- ④ 代議員 or オブザーバーまたは日本YWCAへ ⑤ メッセージを世界YWCA総会へお届け



募金の送り先: 通信欄に『世界YWCA総会ワンコイン募金』とご記入ください

【銀行】
三菱東京UFJ銀行 市ヶ谷支店
普通預金 0058002
(口座名義) 一般会計 財団法人 日本YWCA
理事長 鈴木信子

【郵便振替】
口座番号 00170-7-23723
(加入者名) 財団法人 日本YWCA

問合せ先: 日本YWCA世界YWCA総会 2011 準備会(担当:根岸)
Tel 03-3292-6121 Fax 03-3292-6122 Email office-japan@ywca.or.jp

オブザーバー (12名)

● 伊藤早織 (札幌YWCA会議員、20代)

● 坂本 渚 (名古屋YWCA会議員、20代)

● モーア アン (神戸YWCA会議員、50代)

● 藤原玲子 (静岡YWCA会議員、50代)

● 俵 恭子 (熊本YWCA会議員、60代)

● 堀添里緒 (横浜YWCA会議員、20代)

● 松原恵美子 (プール学院中高YWCA顧問、40代)

● 岡 佑里子 (京都YWCA会議員、京都YWCA職員、30代)

● 吉村千恵 (京都YWCA副会長、30代)

● 樋口さやか (福岡YWCA会議員、日本YWCA運営委員、20代)

● 住田サウラ (大阪YWCA会議員、神戸YWCA職員、20代)

● 西原美香子 (日本YWCA総幹事、40代)

● 俣野尚子 (日本YWCA会長、40代)

YWCAの方々とながりたいと思っています。

世界YWCA総会に参加できることが楽しみな気持ちとうれしさで、私は今、とてもワクワクしています! 日本YWCAの活動を伝えつつ各国YWCAの会員や活動に触れ、希望とエネルギーをたくさん吸収していきたいです。そして、今後の地域・日本YWCA、自身の活動へつなげられる時を持たらと思っています。

外国人でありながら、日本YWCAの一人として世界総会に参加できることをうれしく思う。この世界総会を通して日本YWCAと私が所属している神戸YWCAのことを願いたい。また、世界にあるYWCAの活動を学び、共に分かち合いたい。地域から世界へとコネクションを持ち続けたい。互いにエンパワーされたいと願っている。

国際基督教大学の2年生です。人形劇のサークルに所属しています。昨夏は、日韓ユースカンファレンス実行委員会の委員長をさせていただきました。多くの実りある経験をしてきました。世界YWCA総会でも、「一人」の出会いが本当に楽しみですし、その出会いを今後に生かしていきたいです。

生まれつき難聴の障害を持つ私が、世界の舞台に立つて平和と安全をどのように訴えていくのか。積極的な参加を通して、一人の女性としてエンパワメント、すなわち社会的自立を実現したい。世界唯一の被爆国から未来の世代のために平和憲法が存在を強くアピールしたい。

女性が創りだす安全な世界とはどんな世界なのでしょう。異なる文化や社会に生きるYWCAの女性たちが集って、YWCAの考える安全な世界について話し合う姿を見て、聴いて肌で感じてきたいと思います。

安川美歩 (熊本YWCA会議員、30代)

和嶋晶子 (札幌YWCA会議員、40代)

俵 恭子 (熊本YWCA会議員、60代)

堀添里緒 (横浜YWCA会議員、20代)

松原恵美子 (プール学院中高YWCA顧問、40代)

岡 佑里子 (京都YWCA会議員、京都YWCA職員、30代)

吉村千恵 (京都YWCA副会長、30代)

樋口さやか (福岡YWCA会議員、日本YWCA運営委員、20代)

住田サウラ (大阪YWCA会議員、神戸YWCA職員、20代)

西原美香子 (日本YWCA総幹事、40代)

俣野尚子 (日本YWCA会長、40代)



3 YWCA (神戸・大阪・京都) 会員交流会ーつながり、広がる

11月6日、神戸・大阪・京都

の3 YWCAで会員交流会を開催した。2008年に京都から神戸YWCAを訪問したことがきっかけとなり、2009年は大阪YWCAより「私たちが一緒に！」と、場を提供していただいた。今回は京都に神戸から13人、大阪から11人が来られ、京都からは16名が参加した。

この日、京都YWCAは月2回定例のスリフトショップの開催日であり、まず、その様子と建築家ボリス設計のサマリリア館などを見学してもらった。ついでスリフトショップで皆の足が止まり、掘り出し物を見つけて一幕も。その後は、多文化・バザー&ファンドレイジング・環境・平和・子育て支援・次世代のテーマに分かれ、昼食を共にしながら活動紹介や情報交換を行った。

多文化のグループでは、滞日外国人支援について、神戸の「WA」(International Women's Assistance)のメンバーから京都の「APT」(Asian People together)の活動について多くの質問が出された。「バザー&ファンドレイジング」では、3 YWCAでコンサートなどの人的資源を共有したり、寄付企業などに関して情報交換することなどを確認し、今後は1月頃にクリスマス募金の結果を持ち寄り協賛する場を持つこととなった。「環境」のグループでは、スリフトショップと同様の、各YWCAの3R(リデュース、リユース、リサイクル)の活動を通して、生活の質を日常の中で問い直し持続可能な社会の実現に向けて、物事を選択していくという思いを共有できた。

「平和」のグループでは、同じテーマ・講師の講演会や学習会を3 YWCAで連続開催し、参加の機会を広げる案などが出された。「子育て支援」に関しては、公的施設主催の同様のプログラムとの違いを納得してもらおう工夫などに



ついで意見を交換した。「次世代」に関しては、若いメンバーのスキルアップのため、3 YWCA合同で交流&トレーニングセッションを開くことを検討していくことになった。

最後は全体で、10月からスリフトショップと同時オープンしている「カフェ」提供の紅茶&ケーキと共に、各グループからの発表と各YWCAからのアピールの時間を持った。次につながるアイデアも出て、今後の交流がさらに楽しみとなった半日だった。

京都 YWCA 神門 佐千子

中高 YWCA 紹介

啓明学院中学校・高等学校 YWCA

私たちのYWCA部は57年の歴史がありますが、1995年に起こった阪神・淡路大震災が私たちの活動に大きな変化を与えました。震災後、学校の近くの公園に仮設住宅が建てられ、そこに移り住んだ人たちのために最初に行ったのは、買い物に同伴し、夕食作りの手伝いでした。チラシを配って1軒1軒訪問するうちに、声をかけてくださる方が増え、そこでの交流が始まりました。その後、自治会との交流会を定期的に持つようになりました。やがて活動日以外にも仮設住宅の「ふれあいセンター」を訪れ、ほぼ毎日訪問するようになっていきました。それまでの活動の中心は、学内での点訳本の作成や古切手収集などが中心でした。仮設住宅での活動を通して、「外」に出て行って人々と触れ合うことの楽しさを経験し、校外での活動が多くなってきました。

最近の活動の中心は、街頭募金以外や施設訪問以外に、近隣地域の子ども会のリーダーボランティアを行っています。夏祭りや、焼きイモ会、ネイチャーゲーム、餅つき会、ミニ運動会やハイキングなどのプログラムを地域の方と共に行っています。私たちの学校は9年前から共学校になり、学校の様子も少しずつ変わり、校外に出て行く機会をもつことが困難になってきていますが、YWCAの目指す「隣人に仕える」ことを行動であらわす伝統を守っていきたく願っています。

啓明学院中学校・高等学校 YWCA 部顧問 藤川勝洋



連続講座 「身近な平和の作り方」 熊本YWCA



鎖から脱却して人間の安全が保障されたコミュニケーション構築に向かわせるものは何かについて、石原さんから平和構築学入門の講義を受けた。その後、小グループに分かれ、平和活動のNPOに100万円与えられたとの想定でその使い道を考え、発表し合った。さまざまなレベルの紛争も、他者や自分とより深く出会おう入り口とらえて問題と向き合う中に解決の道がある、という言葉が印象に残った。

5月第2回目は、身近な平和と世界の平和のつながりに気づき、日常生活で問題になるコミュニケーションを整理し非暴力コミュニケーションに切り替える手法を体験した。

熊本YWCAは今年度、次期世界YWCA総会主題「女性が創り出す安全な世界」を年間テーマとする学習会を月1回の割合で計10回行うという計画案を会員集会でまとめ、総会を経て実施してきた。前半の4回は「身近な平和の作り方」シリーズとして、石原明子さん(熊本大学准教授/紛争解決・平和構築学専門)を講師に、参加型の学習会を重ねた。

4月24日の世界YWCAデーに合わせて熊本大学を会場に行った第1回学習会では、国際NGO「非暴力平和隊日本」の安藤博さんから、憲法9条の理念に沿って、たとえ「ハチドリ」のひとしずく」と言われようとも「私は私ができることをする」ために、アジアやアフリカの紛争地に中立的第3者の隊員を紛争予防や解決のために送り込む活動を展開している状況を伺い、一人ひとりが国際的な目になることの大切さに気づかされた。次いで、暴力とは、平和とは何か、暴力のトラウマと連

6月第3回目は、熊本市の男女共生フォーラムへの参加プログラムとして、自分や社会の中の多様な声に心を開かれたらいいことをテーマに、身近な社会問題や25年後に託す社会像について対話形式のワークショップを行い、7月第4回は、ご近所

- 「ご協力ありがとうございます」 賛助費
- 淀川敬子 五十嵐和子 水野雅子
- 安田寛子 齋藤佐智子
- 伊藤真智子
- 世界YWCA賛助費 石川松子
- 国際協力基金
- (ハイチ大地震被災者支援募金)
- 横浜共立学園中学・高等学校 神戸YWCA
- (オリーブの木募金) 森山桂子
- (世界YWCA総会準備寄付金)
- 石川松子
- クリスマス献金
- 日本基督教団経堂北教会
- 事業支援寄付
- ジョン・モス モスはつみ
- 金剛静慧
- 国際婦人年連絡会平和部会
- 日韓ユースカンファレンス有志
- (2010年11月20日現在敬称略)